

# みどりかがやく

## 防災について考える

バックネット裏にミズヒキが花を付けていました。ミズヒキが花を咲かせる期間は8月～11月くらいの間で、花が咲いている時間は午前中の数時間のみです。上から見ると赤く、下から見ると白く見え、横から見ると、細長い花穂が赤白の祝儀袋の水引に似ていることからこの名が付いたとされています。

植物のミズヒキより先に、贈答品の包みにかける赤白の帯ひもが水引と言われるになりました。贈答品や祝儀袋に赤白の水引が使われるのは、室町時代の日明貿易が起源のようです。明からの輸入品の箱全てに赤と白の縄が縛り付けられました。この縄は明側が輸出用の品を他と区別するために使用していたに過ぎなかったのですが、日本側がこの縄を贈答に使用する習慣と誤解し、以後の日本で贈答品に赤と白の紐をかけるようになったという説があります。

さて、昨年台風19号や今年九州や中部地方の豪雨については記憶に新しいところです。立春の日から数えて210日目にあたる「二百十日（にひゃくとおか）」と「二百二十日（にひゃくはつか）」は、台風が襲来する時期でもあるため、農家の方にとっては気をつけなければならない日とされています。今年は立春から数えて210日目の日は8月31日になりますが、例年9月1日ころになります。自然の災害については、普段から意識をしておき、いざというときに対応できる準備を日ごろからしておくことが大切だと考えます。

また、1923年9月1日は関東大震災が起こった日であります。10万人以上の方がなくなったり、行方不明になったりしたという報告書があります。その報告書によると、関東大震災は、地殻を構成するプレート同士が、接触面で一気にずれ動くことにより生じた地震であって、震源域の近い地震としては元禄16（1703）年の元禄地震（推定マグニチュード8.2）があり、このような巨大地震の発生間隔は200年～400年と推定されています。

災害はいつ起こるかわからないものです。過去の災害を教訓として、自分で自分の命を守る準備をしておく必要があると思います。台風、高潮、津波、地震等の災害についての認識を深め、それらの災害に対処する心構えを準備するためとして「防災の日」は1960年に制定されました。また、1982年からは「防災の日」を含む1週間が防災週間と定められています。生徒に少しでも防災について関心をもってもらおうと、本日、乾パンを配付しました。生徒にとって乾パンは、おいしいとは思えないかもしれませんが、非常時にはこれが最高のご馳走になるのかもしれませんが、祝儀袋の水引は未開封の意味や、魔除けの意味もあるようです。本校に群生するミズヒキにも魔除けとなってほしいと思いますが、生徒には、いざという時、自分を自分の力で守れるよう、日ごろから防災について考えてほしいと願っています。9月1日は「防災の日」。



バックネット裏に群生するミズヒキ